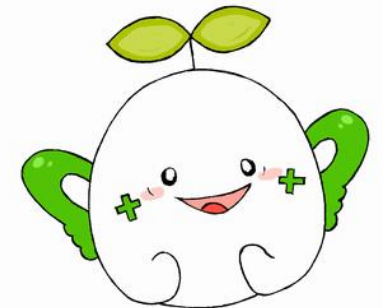


# 医療相談室から見た森之宮地域の課題と取り組み ～孤独死リスクに対する早期支援とモーリンハウス～

森之宮病院 医療相談室  
ソーシャルワーカー 藤井由記代



モーリン：  
森之宮病院看護部キャラクター

# 内容

- 1) 森之宮病院について
- 2) 医療相談室における相談支援の概要
- 3) 生活課題を生む背景への働きかけ
- 4) 森之宮地域の取り組み
- 5) 医療相談室から見た取り組みのポイント

# 1) 森之宮病院の概要

所在地	大阪市城東区森之宮2丁目1-88
診療科目	内科・外科・心臓血管センター・乳腺センター・整形外科 神経内科・リハビリテーション科・小児整形外科・ 小児神経科・泌尿器科・放射線科・歯科・麻酔科
総ベッド数	351床
病棟編成	急性期病棟157床 回復期リハビリテーション病棟 151床 障害者(児)病棟 43床



# 病院は、地域包括ケアにおける相談拠点の1つとなっています

## 入院前の暮らし

急遽入院治療が必要になった！！

### <医療ニーズ>



家には寝たきりの夫がいる。私一人が入院なんてできない！！

介護が必要になった。介護はできないし、リハビリして治してほしい！

### <身体機能ニーズ>



一家の大黒柱が脳卒中に。まだ子供も小さいし、これからお金がかかるのに・・・

自宅で倒れていた！！  
お金がなく飲まず食わずだった。

### <生活背景ニーズ>



妻の急死後、お金の所在も何も分からない・・・

## 入院

### 医療・リハケアの提供

### 社会福祉士による生活背景への支援

### 病院

☆療養病棟・障がい者病棟等の選択をサポート  
☆医療・身体機能・生活背景のサポートを引き継ぎ

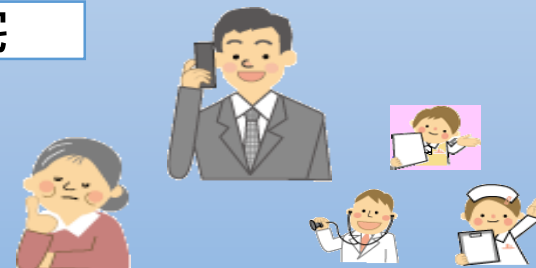


### 施設

☆介護保険施設・居住系施設・自立支援施設等の選択をサポート  
☆医療・身体機能・生活背景のサポートを引き継ぎ



### 自宅

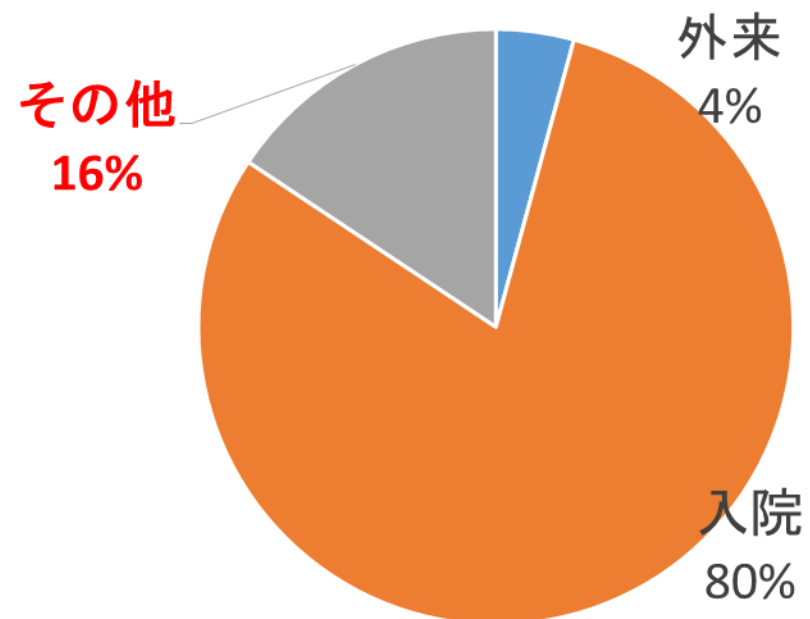


☆在宅生活サポートチームの初動をコーディネート

## 2) 森之宮病院医療相談室の相談支援



相談件数の内訳: 対象者 (H26年度上期)



当院の患者さんだけでなく、当院にかかっていない方のご相談もお受けしています。



# 介護等のご相談をうかがっています

## 退院後が心配

- \* 介護は初めてで不安...
- \* 家でもリハビリを受けたい
- \* 看護師が家に来てくれるの？
- \* 施設を利用したい

- \* 医療費が心配...
- \* 経済的に不安がある



## 療養生活の不安

- \* 初めての入院生活で心細い
- \* 病気への不安がある
- \* 家にいる家族のことが気がかり...

## 制度を利用したい

- \* 介護保険 \* 身体障害者手帳
- \* 高額療養費 \* 傷病手当金
- \* 指定難病 医療費助成 など

- \* ヘルパーさんってどこへ頼むのかな？



医療相談室(1F受付横)

月～金 9時～17時

土 9時～13時

## 医療相談室へお声かけください

社会福祉士が対応しています。お気軽にご相談ください。

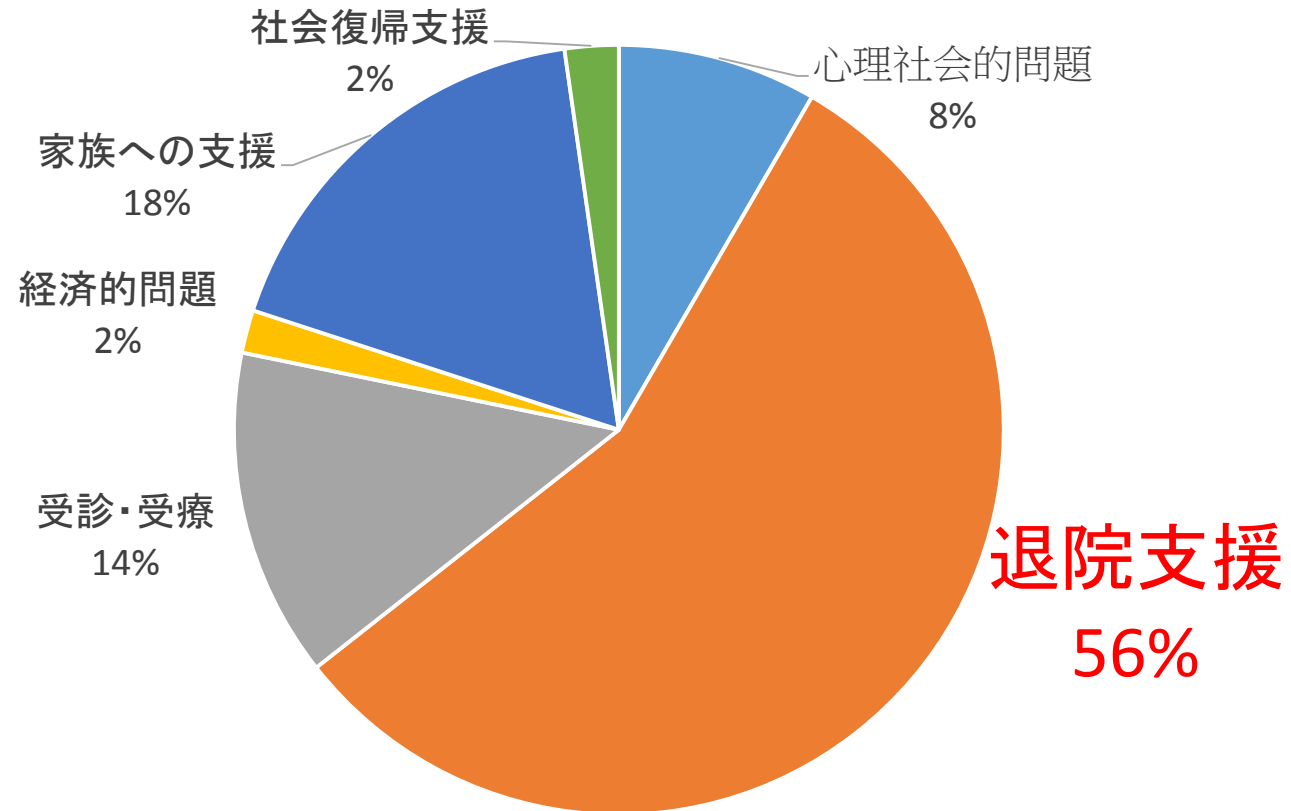
社会医療法人 大道会 森之宮病院 医療相談室 TEL:06-6969-0111(代表)

FAX:06-6969-6050(直通)



# 相談内容の内訳

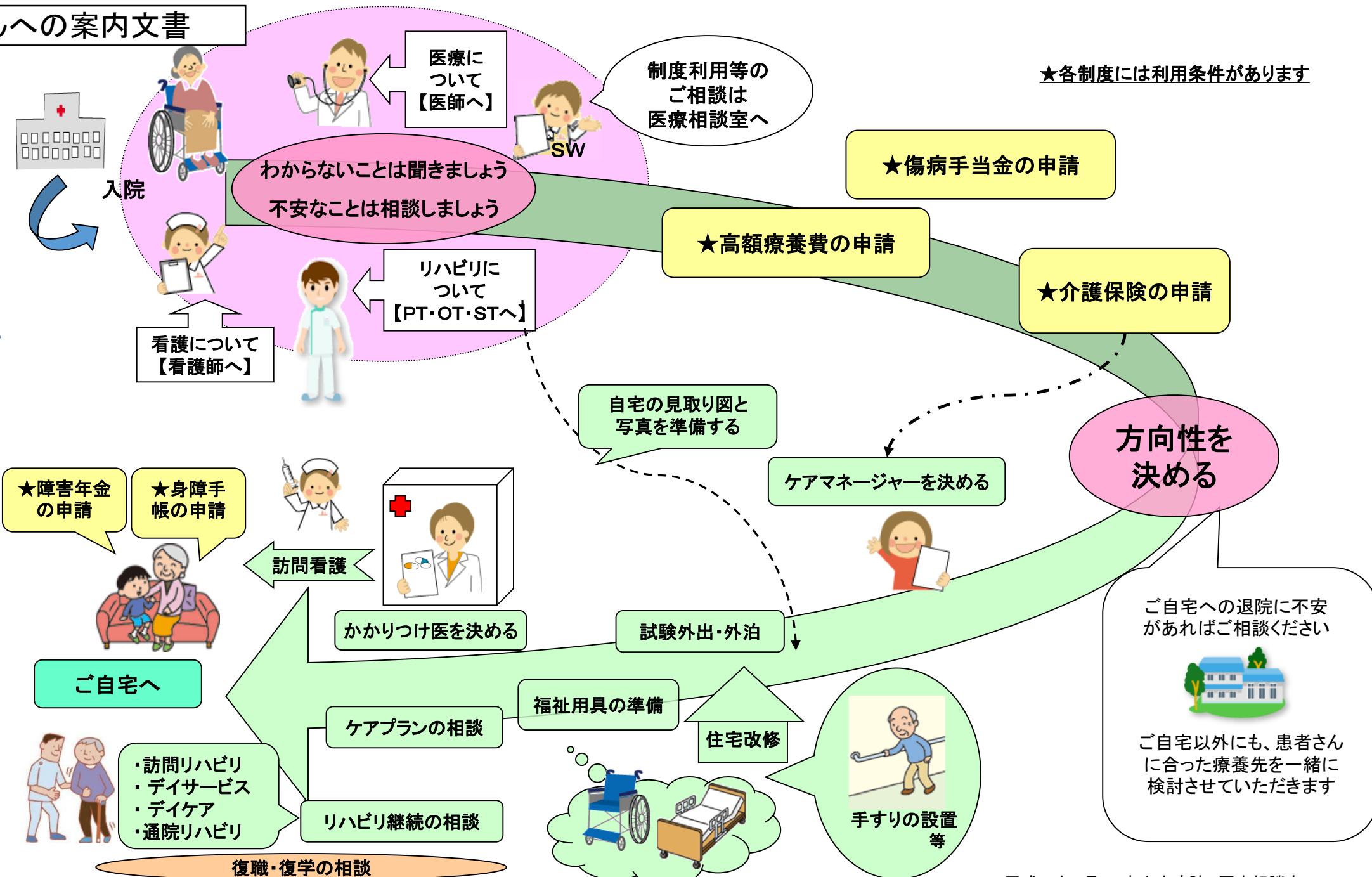
H26年度森之宮病院医療相談室 相談内容の内訳 (n=57,292件)



半数以上が退院後の暮らしの準備に関する相談です。  
その他生活全般に関する相談に対応しています。

# 患者さんへの案内文書

私たちが  
患者さんの  
入院生活・  
退院後の  
生活準備を  
サポート  
します

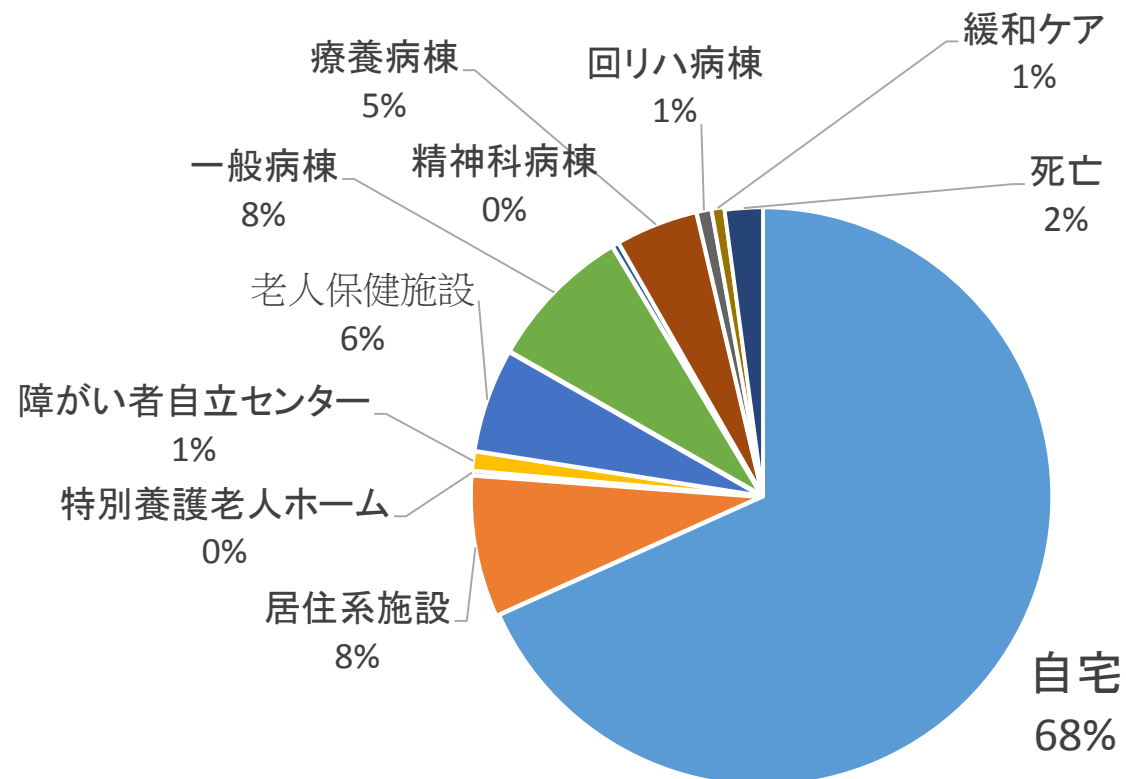
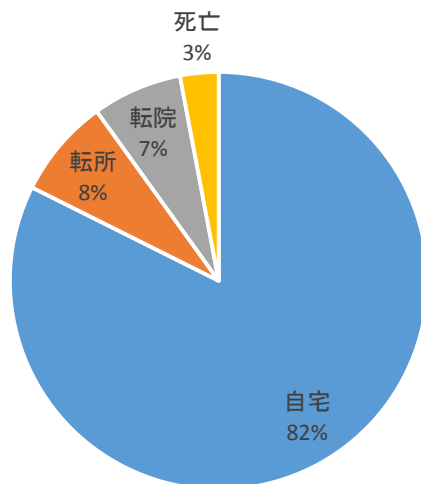




# ソーシャルワーカーが退院支援した患者さんの転帰

SWによる退院支援患者の転帰(H26年度n=848)

森之宮病院患者の転帰(H26年度:n=3,626)



自宅への退院支援が約7割を占めますが、  
自宅以外の各所への利用支援も行っています。

### 3) 生活課題を生む生活背景への働きかけ: 事例紹介

＜入院を機に、近隣住民・関係機関から施設入所支援を求められた事例＞

83歳男性・独居  
入院前

＜生活リスク＞  
転倒後、腰痛継続  
物忘れの進行

＜生活課題＞  
入浴・買い物に支障  
ゴミ屋敷化  
水光熱費等の滞納

＜問題発覚＞  
・住民が転居を求める  
・ライフラインがストップ

- ・ 治療・リハビリ、買い物等の生活支援、金銭管理支援を要する状態であった。
- ・ 近隣住民等は生活課題を把握していたが、相談先等が分からず困っていた。

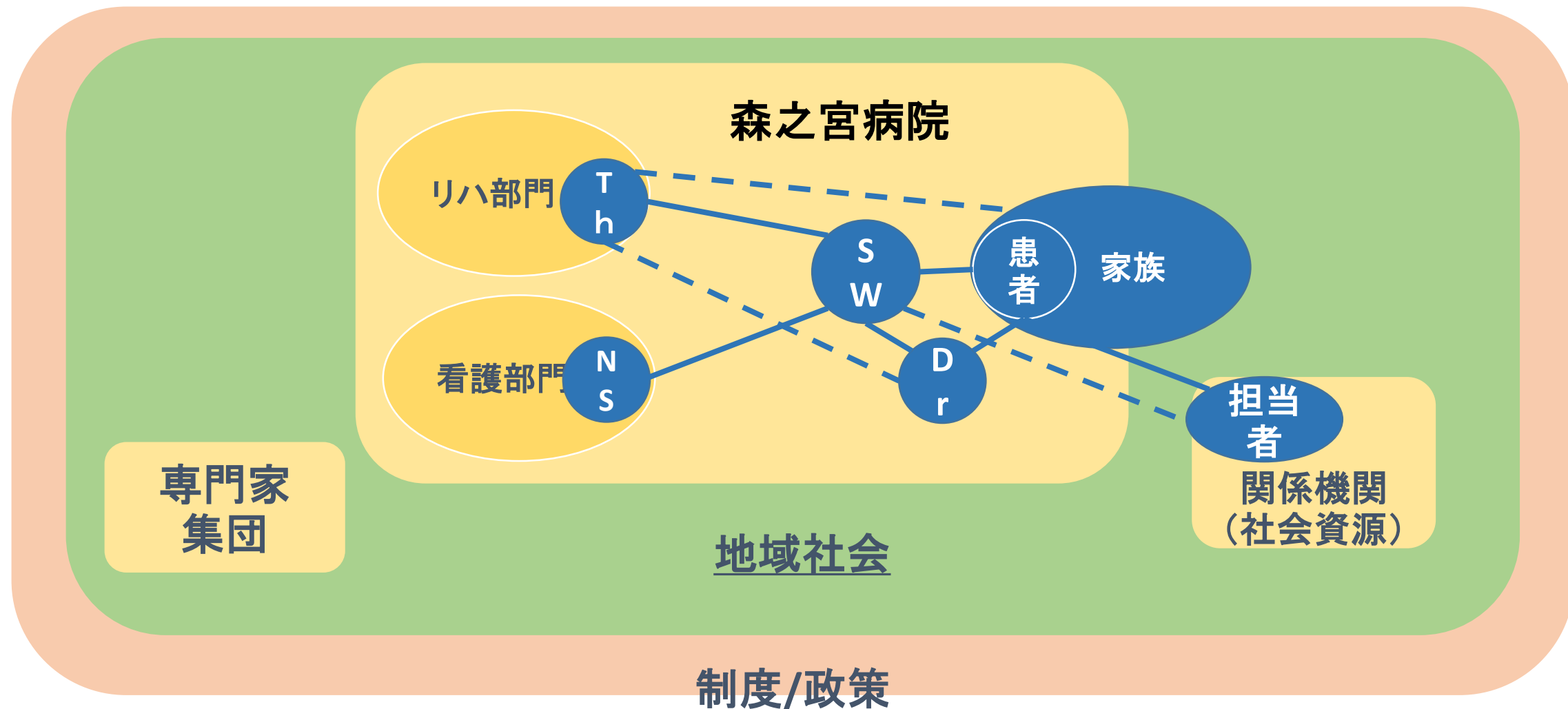
＜退院準備＞患者は自宅退院を希望。患者・近隣住民・関係機関とともに下記を準備。

- 1.退院前に、関係者による家屋清掃・家屋整理・ガス廃止・金銭管理支援を導入した
- 2.福祉用具利用による屋内動線の確保:介護用ベッド・室内手すり・トイレ内手すりの設置
- 3.看護小規模多機能型居宅介護による柔軟な訪問・通所等のサービスプランの導入
- 4.配食サービスの利用

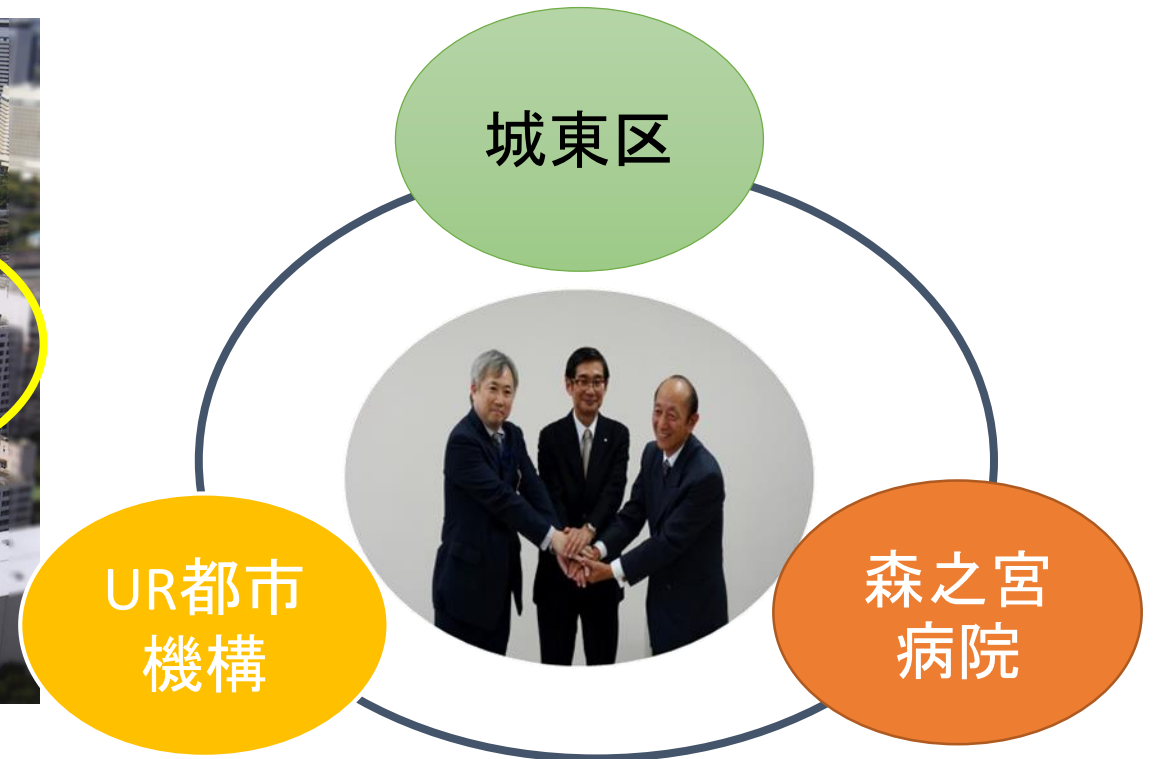
その課題、どこで解決できますか？

個人レベル？組織レベル？地域レベル？制度政策レベル？

点・線・面の解決・・・を検討し、地域の関係機関とともに考えよう♪



## 4) 森之宮地域の取り組み



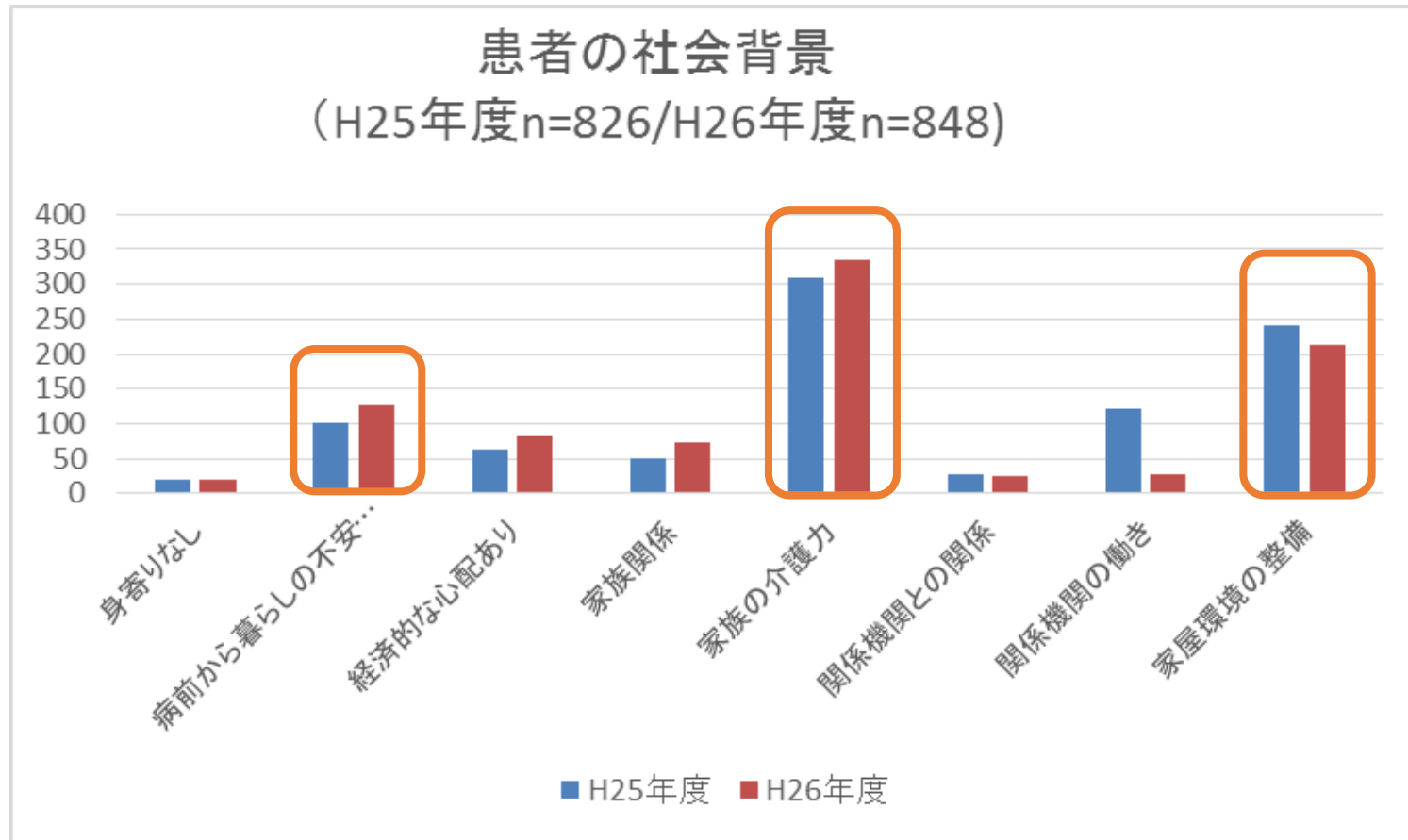
H27年11月:

『スマートエイジングシティの理念をふまえたまちづくり協定』  
を締結

12

- ・患者ニーズの発信
- ・患者の暮らしをささえる  
具体策の提案
- ・医療介護技術の提供

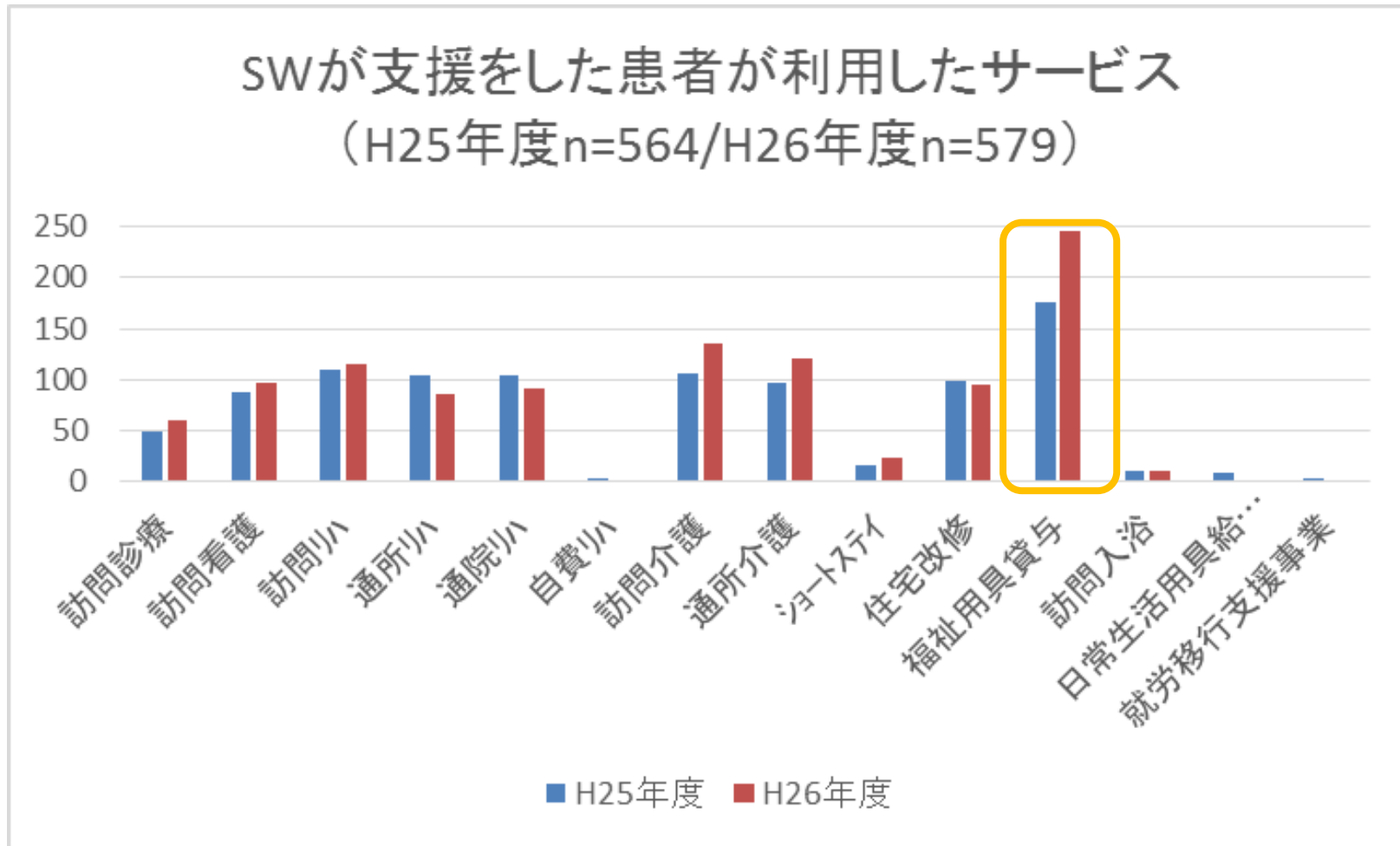
# 森之宮病院医療相談室が把握した患者のニーズ①



＜実態＞2.5人に1人が家族の介護力を心配、3.5人に1人が家屋環境を心配、  
7人に1人は病前から暮らしが不安であったが不安を解消していない

⇒介護力を上げる支援・家屋環境を整える支援・身近な相談支援機能が求められている

## 森之宮病院医療相談室が把握した患者のニーズ②



＜実態＞2.5人に1人が福祉用具を利用している。

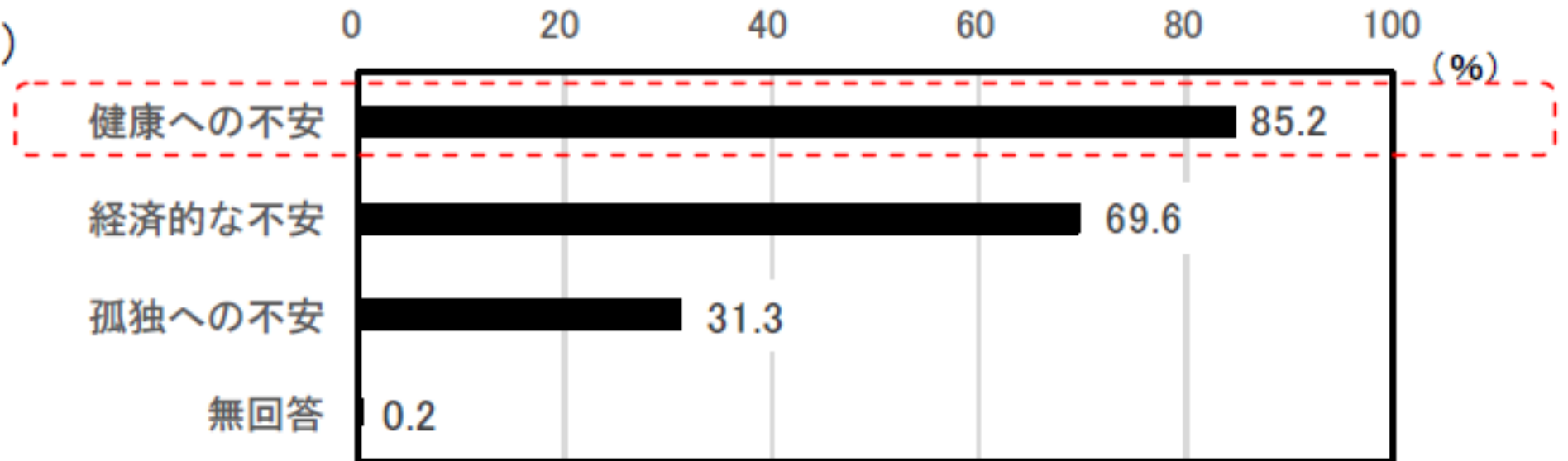
⇒福祉用具を体験利用でき、身近に相談できる環境が求められている



# 大阪市によるニーズ調査①

## ■不安に感じていること

高齢者含む世帯のうち「将来への不安」を感じている世帯  
全体(425世帯)



健康への不安・経済的な不安（病気になったときの治療費など）を感じている人が多い。

# 大阪市によるニーズ調査②

## ■不安への対応のニーズ

高齢者含む世帯  
全体（508世帯）



高齢者の不安を和らげるニーズとして、生活面や健康面でのちょっとした困りごとの相談の場を求める声が多い。

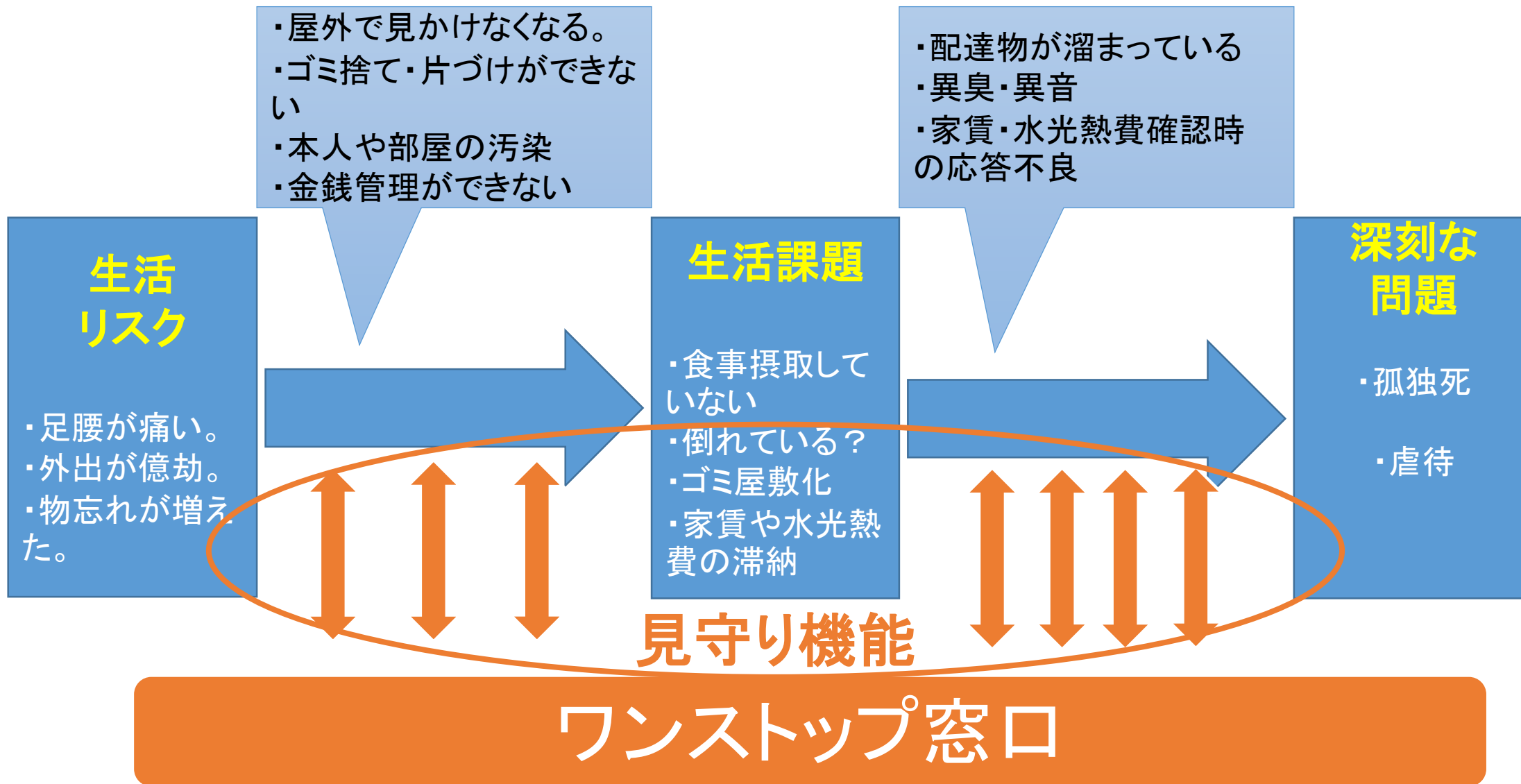
# 取り組み1:生活リスクの早期発見・早期介入を目指した検討会議



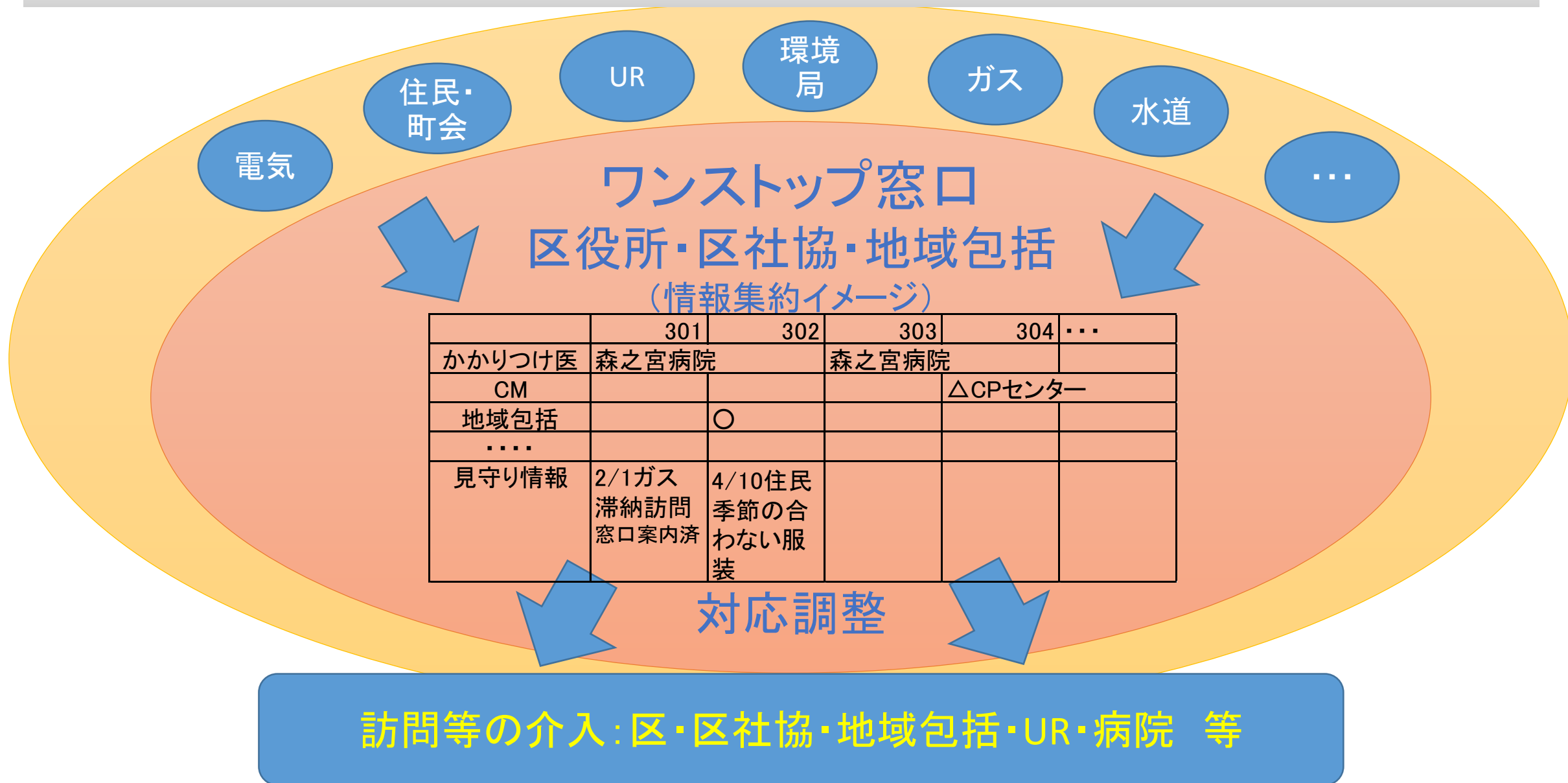
## 検討項目

1. 情報収集の仕組み
2. 見守り機能の強化
3. 介入を要する住民が発生した時の対応方法
4. 住民向けの広報

# 孤独死リスクへの早期介入 ～孤独死に至るプロセスから見守り項目を考える～



# 早期発見⇒早期介入のプロセス





この地域に関わる皆で支え合えるまちづくりを・・・

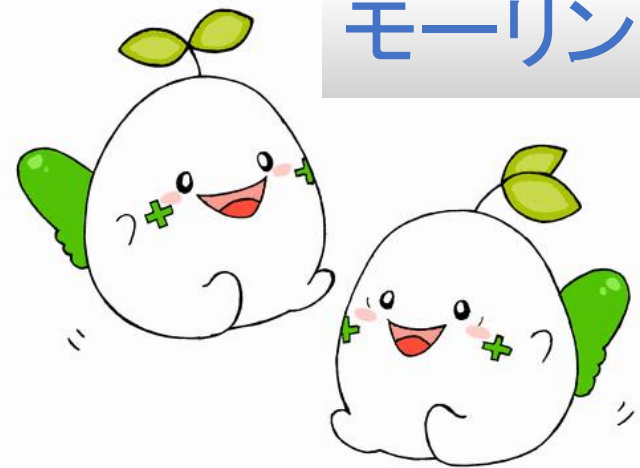


常に意識してもらえらるような広報も今後の課題となっています



## 取り組み2:

# モーリンハウス(医療・介護・リハビリモデルルーム)オープン



### ～本モデルルームに込めた思い～

家で医療や介護を受けながら生活することに、漠然とした不安や暗いイメージをお持ちの方がいらっしゃいます。病院で患者さんを支援するリハビリなどのプロがそんなイメージを払しょくし、在宅での生活を支援したいという思いから、本モデルルームを開設しました。

### 【コンセプト】

- 従来の生活スタイルの継続をめざした福祉用具の活用
- 広さ・間取り、改修に制限のある住宅での工夫  
(穴あけ含め改修工事はしない)

- ・UR都市機構による居室の無償提供
- ・社会医療法人大道会による監修

- 1.福祉用具を活用した家屋環境を知る
- 2.福祉用具の利用を体験する
- 3.介助指導を行う
- 4.健康や介護・リハビリ等の相談を受ける

<環境調整前>





自助具を使うと、  
手の力が弱くなくても  
自分で食べることができる  
んだね。



自宅のソファでも手すりを  
使えるんだね。







シャワーチェアを使うと  
足腰に負担なく  
浴槽に入れるね。

こんなに簡単に、  
しっかりした手すりを  
つけることができるんだね。

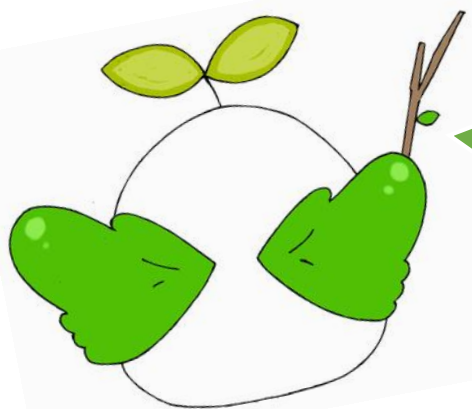




カーテンレールに  
点滴をかけるんだー  
吸引も家でできるんだね



家で治療もできるんだ  
ね。  
医師や看護師、リハビリ  
など、みんなが訪問して  
くれるよ。



ベッドも手すりも、  
使いやすいものを選  
べるんだね。



## 5) 医療相談室ソーシャルワーカーから見た取り組みのポイント

- ・生活支援につなげる具体的な目標を示し、関係者と共有する
- ・個々の生活課題への支援にとどまらず、地域の背景要因への働きかけを意識する
- ・目標を共有できる仲間と協働する
- ・SWだけでなく、各職種の技術・チーム力を地域に還元する意識をもつ

⇒それぞれの地域で、ひとつずつ、  
患者の暮らしを支えるシステムを構築し続ければ、  
住民ニーズに沿った地域包括ケアシステムにつながる♪



ご清聴くださり、有難うございました